

平成29年度 長寿の里 事業報告

自平成29年4月 1日
至平成30年3月31日

平成29年度 長寿の里 事業報告

施設基本方針

～イノベーションを楽しむ組織づくりをしよう～

施設年度目標

- ・人財確保(新規学卒者採用30名)
- ・IT化の促進(介護ロボ導入・充実)・全事業所への導入
- ・理念(「家族主義」)の共有

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

- ・元気塾 毎月1回開催
 - ・経営(管理者)会議 毎月2回 1日及び15日に開催
 - ・四半期経営会議 7月・12月・3月開催
 - ・海外視察研修 カンボジア・台湾・アメリカ
 - ・キャリアパス研修 初級研修1回・実務者研修2回・新人職員研修1回
- 各施設で実施していた研修や勉強会について、法人内で共通の内容を研修係が中心となり実施・管理を行っている。29年度上期で準備を行い、下期より始動。介護技術や法人理解、接遇マナーなどを職務や段階に応じて実施。
- ・人財確保(新規学卒者採用30名)
 目標30名に対し、新規学卒者9名(高卒7名/大卒2名)の採用となった。
 活動内容としては、昨今介護離れの傾向にある状況を打開すべく、「介護」の仕事を分かり易く知ってもらうためのAR動画付きパンフレットを作成し、近隣の高校へ配布した。また、募集ポスターも作成し、校内に掲示を依頼した。学校訪問や就職担当教員との連絡なども、求人票開募時、昨年の新卒同行訪問、夏休み終了後、年末挨拶など何度かコンタクトを取り、関係性を深めるようにした。
 専門学校と福祉系の大学へも、求人票の提出を試みたが、反響は無かった。
 - ・理念(「家族主義」)の共有
 各施設において、法人の理念である「家族主義」について研修を行いました。
 引き続き平成30年度においても法人理念の共有をして参ります。
 - ・IT化の促進(介護ロボ導入・充実)・全事業所への導入
 行徳翔裕園においてインカムの導入、いちかわ翔裕園の離床センサーの導入、鎌ヶ谷翔裕園のHALの導入をしましたが、全事業所への導入には至らず、かしわ、ふなばし翔裕園においては今年度まずは、ふなばし翔裕園に介護ロボ等の導入を行い業務効率の向上、職員離職率の低下に繋がらるようにして参ります。
 - ・ダイバーシティについて
 長寿の里では、現代の働き方について、まず最初の取り組みとして子どもを育てながら働ける職場を目指し実践して参りました。
 現在、鎌ヶ谷 三名育児時短就労、一名育児休暇中
 行徳 該当者なし
 いちかわ 一名育児時短就労
 かしわ 一名育児時短就労
 ふなばし 一名育児時短就労
 平成30年度は更に有給の時間単位での取得が出来るよう、法人としてトライアルを実施致します。そのことによりいろいろな条件の中でのより良い働き方を構築して参ります。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	H28 実績	94.8	94.0	95.2	94.9	94.6	95.9	96.0	95.9	95.6	95.6	96.0	94.2	95.2
	H29 目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
	H29 実績	94.4	93.8	94.1	94.8	96.1	96.3	96.0	96.2	97.0	95.8	96.2	96.8	95.6
短期	H28 実績	88.2	86.7	88.2	93.6	96.1	90.8	91.2	95.6	94.6	93.2	99.7	95.9	92.8
	H29 目標	108.0	109.0	110.0	110.0	110.0	110.0	107.0	107.0	107.0	106.0	106.0	106.0	108.0
	H29 実績	100.2	99.6	100.3	99.9	104.7	102.7	95.3	102.2	97.0	97.5	100.8	101.3	100.1
通所	H28 実績	84.3	87.1	86.6	86.0	83.1	84.4	86.3	86.8	83.3	82.5	88.4	88.3	85.6
	H29 目標	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0
	H29 実績	85.1	83.3	87.3	88.4	87.9	87.0	90.1	89.7	90.2	82.1	87.8	87.1	87.2
ケアハウス	H28 実績	99.4	99.4	97.8	99.3	99.0	99.9	99.5	98.7	99.2	98.8	96.8	98.0	98.8
	H29 目標	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0
	H29 実績	96.8	96.6	98.3	96.6	97.7	96.6	96.3	96.7	99.6	98.9	98.4	96.1	97.4
サ高住	H28 実績	96.0	91.0	84.9	92.0	92.0	94.0	93.9	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	93.7
	H29 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0
	H29 実績	94.4	97.3	95.5	97.9	90.3	93.7	94.3	95.3	86.2	92.0	100.0	100.0	94.7
有料	H28 実績								8.0	16.6	30.0	40.7	69.0	32.9
	H29 目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
	H29 実績	93.0	95.0	94.2	90.8	95.0	95.0	90.0	90.7	90.0	90.0	97.0	97.0	93.1
訪問(件数)	H28 実績	626.0	636.0	626.0	722.0	745.0	725.0	769.0	787.0	863.0	978.0	961.0	1328.0	813.8
	H29 目標	2805.0	2916.0	2855.0	2966.0	2966.0	2880.0	2966.0	2880.0	2966.0	2966.0	2708.0	2966.0	2903.3
	H29 実績	2944.0	3165.0	2988.0	2939.0	2798.0	2989.0	3219.0	3120.0	2928.0	3205.0	3179.0	3738.0	3101.0
居宅(件数)	H28 実績	99.0	97.0	98.0	100.0	102.0	94.0	98.0	99.0	98.0	104.0	110.0	113.0	101.0
	H29 目標	138.0	139.0	139.0	139.0	139.0	139.0	139.0	139.0	139.0	139.0	139.0	139.0	138.9
	H29 実績	129.0	128.0	120.0	125.0	128.0	130.0	126.0	123.0	122.0	121.0	125.0	129.0	125.5

平成29年度 鎌ヶ谷翔裕園 事業報告

施設基本方針

～革新～

施設年度目標

- ・人財確保
- ・介護ロボットの導入・介護事務のIT化による介護職員への業務軽減を図り、離職率を軽減
- ・地域への地域貢献活動

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【特養】

・前年度比で稼働率はほぼ横ばいとなり、目標には届きませんでした。状態の悪化を防ぐために介護・看護職等の多職種で連携し体調不良時の早期受診・入院等の対応を行った結果、僅かながら入院日数減に繋げる事が出来ました。看取りケアについても、お看取りさせて頂いた方が6名いらっしゃいました。早期受診と看取りケアを今後も推進するために、協力医療機関との連携強化に努めます。

・満足度向上に向けて、ニーズに沿ったレクリエーションや行事を実施致しました。特に外出機会の増加に向けて殆ど毎日外出レクを実施いたしました。その様子をHPや広報誌等に掲載する事で新規の入居申請数の増加にも繋がりました。またショートステイとの連携により空床期間が短縮を短縮し、スムーズな入居に繋げる事が出来ましたが、医療機関等から入居される際のタイムラグの解消に向けて、医療機関や老人保健施設等との連携・連絡を密にしていきます。

【短期入所】

・稼働率は前年度比で向上し、100%を超える事が出来ました。大きく稼働が低下する事無くベッドコントロールが行えたと同時に、年度を通じて緊急利用の受け入れを積極的に行った結果、稼働率の向上に繋がったと考えられます。反面、長期間の利用者が増加し実人数は昨年より減少傾向にある為、営業先やツールの見直しを行い実人数増に向けて取り組みます。

【通所・鎌ヶ谷】

・前年度稼働率から減少し、目標を若干下回る結果となりました。稼働率減少の要因として、営業活動を行っているものの営業圏域内の居宅支援事業所との関わりに偏りがあり、結果、実人数が伸びなかったと考えられます。その為、30年度は営業圏域内の新規事業所との関係性構築に向けて積極的に活動いたします。

・活動の幅は広がっておりますが、活動のマナー化も稼働率減少の要因であると思われれます。大正琴教室等の発表を法人内他施設に訪問、発表を行って参りましたが、30年度は教室等の発表の場を定期的に設け、また、食品加工部や認知症加算取得に伴う学習プログラム等を開始し、やりがいや役割持てご利用頂けるデイサービス作りを行います。

【通所・つかだ】年間平均稼働率89%（定員13名）（目標85%）

・前年度稼働率目標達成に及ばず、営業活動や日々のケアに更に入力した本年は、新規獲得件数は前年度の約半分という結果ながらも稼働率目標を達成する事ができました。入院者や、終了者は例年同様定期的に発生いたしました。利用枠に空きが最小限となるように居宅事業所へのアプローチや、利用日数の増加などの調整を日々おこなうことで稼働を安定させる事ができ、また、空き曜日がなく、継続利用の状態をキープできたことが結果に繋がりました。

・総合事業本格始動にともない、地域密着型通所介護の役割を意識しレクリエーション内容の見直しや、ケアの質の向上等更に力をいれ他事業所との差別化を図る必要があります。内外営業に漏れないよう毎日のサービス提供にあたります。

【居宅】

・施設入所や入院などで解約件数が多くありましたが、同時に新規依頼も多く、稼働率を維持する事が出来ました。しかし年度の後半で入院者の増加等から稼働率は大きく低下してしまい、目標の達成には至りませんでした。

・各専門職と連携を図りながら、ご利用者に対して迅速に対応して個々に合ったケアプラン作りに努めました。

【全体総括】

特養については前年度比で稼働に大きな変化はなく、目標達成には至りませんでした。

看取り介護を始めとして、状態変化の早期発見、早期受診を多職種で連携して取り組んできた結果、入院日数減に繋げる事ができました。また、外出レクリエーションやフロア毎のイベントを充実させ、ニーズに沿った過ごし方や楽しみ方をご提案する事ができました。自己実現に繋がったご利用者からは、感謝の声だけでなく、生活への向き合い方も変化がみられる様になりました。ノーリフティングの取り組みとして、フレックスボードやスライディングボードを導入し、ご利用者も介護職員も負担の少ない介護の実現を目指しています。

在宅部門として、ショートステイが年間稼働率100%を超える事が出来ました。デイサービスと同様の課題として実人数の減少があります。他新規入所施設オープン等に伴う利用終了などが実人数低下の要因として考えられます。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	H28 実績	96.4	94.5	94.9	94.3	93.8	96.2	95.2	93.0	92.9	94.8	94.7	93.2	94.5
	H29 目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
	H29 実績	92.0	92.5	94.2	95.4	97.3	93.9	94.1	93.9	94.2	94.3	94.4	96.4	94.4
短期	H28 実績	101.4	90.2	89.7	97.8	100.5	95.5	92.8	98.2	100.6	98.3	104.5	102.6	97.7
	H29 目標	108.0	109.0	110.0	110.0	110.0	110.0	107.0	107.0	107.0	106.0	106.0	106.0	108.0
	H29 実績	105.4	100.9	99.6	100.0	98.5	99.6	95.9	105.6	98.5	101.2	103.7	102.2	100.9
通所(鎌)	H28 実績	89.5	92.3	92.3	95.3	88.8	87.9	94.1	96.2	97.3	95.3	94.9	94.2	93.2
	H29 目標	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0
	H29 実績	91.1	89.8	91.2	92.9	93.9	92.2	97.0	94.3	91.8	83.3	88.7	88.8	91.2
通所(つか)	H28 実績	82.5	89.0	89.0	81.7	81.7	83.7	86.3	80.1	77.5	76.9	85.2	82.6	83.0
	H29 目標	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
	H29 実績	84.0	88.3	87.6	90.8	89.5	89.1	89.4	93.5	91.7	85.2	86.9	90.9	88.9
居宅(件数)	H28 実績	73.0	72.0	75.0	74.0	75.0	69.0	71.0	70.0	70.0	69.0	72.0	68.0	71.5
	H29 目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
	H29 実績	80.0	78.0	73.0	77.0	79.0	79.0	77.0	74.0	74.0	73.0	75.0	78.0	76.4

平成29年度 行徳翔裕園 事業報告

施設基本方針

～ 選ばれる場所 ～

ここに住まう人々やそのご家族が安心してゆったりと暮らしてゆける。
 ここがコミュニティの中で、無くてはならない地域の目印となる。
 ここで働けることに、誇りを持ち自慢したくなる。
 ご利用者・ご家族・地域・職員、大切な人達に選ばれる場所となろう。

施設年度目標

その日その時に最高のサービスを！

その人らしい生活をおくる事ができるよう
 一人ひとりの生活に職員が寄り添いチームで支え
 その時々でその人にとって何が最良かを見極めて実行するチームを目指す。

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【軽費老人ホーム】

①年間ベット稼働率

年間ベット稼働率97.4% (目標99%、対目標-1.6%、前年度比、-1.4%)

毎月1～2名の入退居が続き、入院者数も長期入院が相次ぎ473名と前年度を大きく上回る結果となってしまった。

入退居による空床のタイムラグは平均4日以内に抑えましたが、年間を通し入院者が途切れることがなく続き、早期退院に向けて、ご家族様や病院と連携を図りましたが、目標稼働率に対し、-1.6%届かなかった。

来年度も継続して、入退居のロスを最小限に抑える為入居者、待機者の情報を細かく把握していく。

②空床利用

来年度入居待機者の不安を軽減し、スムーズな入居に繋げる為自費でのお泊りサービスを計画。今年度、空床となっている静養室一室を居室として全面改装が終了したので、広報活動をおこない自費サービスを開始する。

【介護課】

①居室担当

居室前に担当職員写真を掲示し担当職員をお知らせした。担当職員がご入居者をより理解して、他の職員と情報共有・サービスの統一を図るためご家族への日常連絡や毎月のお手紙などを担当者より発信し、28年度の名前だけの担当者制度を払拭する事ができている。

②クラブ活動

既存の音読クラブでは医務課と協同し口腔体操を取り入れる等して、参加者を増加する事ができた。

来年度新しいクラブ活動を発足する為、居室担当職員が今年度ご入居者へのリサーチして介護課で検討会を行っている。

【通所】

年間稼働率91.6% (目標90%、対目標比+1.6%、前年度比+7.6%)

①年間稼働率91.6%となり目標であった90%を達成する事ができた。

マンネリ化していたレクリエーションを「大人の夢をカタチに変えるデイサービス」をコンセプトに選択レクリエーションに変更したことにより28年度下期より稼働が伸びてきた。その為、29年度では選択レクリエーションのマンネリ化を防ぐ為更に内容の充実を図り実施した事が稼働率向上に繋がった。また、ケアマネと状況報告など密に連絡をとることにより信頼をして頂くことが出来、新規の紹介が増えた。ご利用者やご家族に対してもお手紙や、こまめに連絡、訪問するなど、ご利用者やご家族との信頼関係構築も図り追加でのご利用を増やすことが出来た。また、地域で軽介護者の受け入れ事業所が少ない事が判明した。重介護者受け入れ可能事業所である事は関係居宅へは周知されているため、今後は軽介護者も受け入れしている事業所である事を積極的にアピールした営業活動を行っていく。

【全体総括】

ケアハウスに関しては、年間目標・前年度比共にダウンし未達成となっている。

通所に関しては、年間目標・前年比共にアップし達成する事ができた。

ケアハウスは今年度から行う予定であった〈体験お泊り自費サービス〉の開始が遅れてしまい、来年度より開始する事により入居待機者の確保と空床期間を最小限に抑えていく。通所に関しては利用登録者数を増やしていく事が急務であり、追加利用に頼らない体制作りに向けて、営業活動・提供サービスの充実を確実にこなしていき、居宅CMやご家族と密に連携をとっていく。

有資格者の確保では、実務者研修5名、アセッサー6名、第一種衛生管理者1名、介護福祉士3名、介護支援専門員1名の合格者結果であった。国家試験の介護福祉士合格者100%に対し、介護支援専門員は14%と合格率が低く、資格取得に対して模擬試験をおこなう等の策を興じていく。

作年度から開催の全6回の地域セミナーは平均参加人数が昨年と比べ激減する結果となった。地域のニーズに合ったセミナー・講習会をリサーチし、出張開催等も視野に入れて社会福祉法人として地域で必要とされる会を開催していく。

離職率は前年度30.9%より今年度24.0%と6.9%の低減ができたが、今年度離職者の平均在職期間が14ヶ月と、短期間で離職者が多い傾向にあった。入職者に対しての入職からの1年間の教育体制を再整備しフォロー体制を確立すると共に、ダイバーシティの働き方改革推進とキャリアパスを活用し、引き続き来年度も離職率の低減を図っていく。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
軽費	H28 実績	99.4	99.4	97.8	99.3	99.0	99.9	99.5	98.7	99.2	98.8	96.8	98.0	98.8
	H29 目標	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0
	H29 実績	96.8	96.6	98.3	96.6	97.7	96.6	96.3	96.7	99.6	98.9	98.4	96.1	97.4
通所	H28 実績	79.8	81.2	79.8	76.9	78.9	84.0	86.7	86.8	84.7	86.7	91.7	88.0	83.8
	H29 目標	89.0	90.0	91.0	90.0	88.0	90.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	91.0	90.3
	H29 実績	89.1	86.7	95.7	98.4	93.2	95.0	98.0	90.0	92.0	85.0	91.0	85.0	91.6

平成29年度 いちかわ翔裕園 事業報告

施設基本方針

変化を恐れず、強靱な組織体制を構築し、全職員でイノベーションを楽しむ

施設年度目標

- ① 選定調査書満点評価施設となる
- ② 各役職の役割を明確化する
- ③ 派遣職員に頼らず離職率の低減を図る
- ④ 地域向け教室の開催
- ⑤ ユニットリーダー研修生受け入れに向けて勉強会を開催
- ⑥ 介護ロボットなどのIT・IOT機器導入による業務負担の軽減

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【特養】

生活相談員

開設し5年目の平成29年度は開設当初より入居して頂いている入居者様の体調不良者が続出し、看取りや体調悪化の為に退去が続き入退去が計34名と多い年度であった。体調悪化にてご家族へ早急に連絡を取る事でご家族の意向を尊重し行動した結果、現場に混乱を招く事は少なかった。7月より長寿の里共通入居申込書を有効活用する事で待機者を増やし入居までつなぐことができたが、目標退去後3日以内に入居して頂く事ができず入居まで5日から7日間程かかり稼働率を下げってしまう原因となってしまった。待機者確保に努める中で毎月発行している広報誌を有効活用し毎月待機者のご家族に郵送し少しでも施設の取り組みをアピールし待機者確保に努めております。

営業活動として昨年度老人保健施設・居宅介護支援施設に営業活動件数の目標を立て、実施したが入退去等重なった月に関しては実調時のみの営業件数となってしまう為、新年度は業務改善することで営業回数を確保し市川市だけでなく幅広く長寿の里施設のアピールを継続し実施します。

介護支援専門員

平成29年度ではユニット推進施設に認定され、個別性をケアプランで表現することを目標としました。情報収集を行い各ユニットごと5週毎に暫定プランを作成しユニットリーダー確認後ご家族様へ郵送致しました。日課表は24時間どのタイミングでケアを行っているか明確化でき個別性を表現しました。ケアプランの目標期間を長期は25週管理・短期は3か月間に変更し、前年度の半分の期間での見直しとなり毎月の作成と郵送数が2倍に増えてきましたが、より細かいケアプランの作成が出来ました。新年度は個別性のあるプランとケアとの連動・目標期間の見直し・仕事の効率化・加算・チームワークを意識して取り組めるように努力致します。

介護課

平成29年度よりユニットリーダー実地研修施設として実習生の受け入れを行い、様々な施設の方たちと関わることで自施設の良い点、悪い点が明確になったため今後は改善点を修正し、更にユニットケアを深めていきます。また、初の試みとして翔裕園の日に地域の方たちを多くお招きし、好評を頂くことが出来ました。今後も地域の方たちと積極的に交流を図っていきます。

職員の腰痛予防に力を入れ、リフト等福祉機器を積極的に推進し、リフト2台・スライディングボード3枚・スライディングシート1枚を導入しました。まだまだ使いこなせていない職員も見受けられる為、すべての職員が適切に使用する事が出来、職員入居者様双方にとって負担が少ない介護を目指していきます。

栄養課

入居者様の身体状況変化に応じて食事内容を検討して対応しましたが、血液データ結果から低栄養状態の方が増加する結果となってしまいました。提供量に対し摂取量が少ない方に対しては少量高栄養の食事の提供が必要であり今後の課題となり、看取り期の方に対しては各課と協力し、穏やかな生活が保てるよう身体に負担がかからない食事の検討ができたと思います。今後は入居者様、ご家族の希望を可能な限り叶えられるよう対応していきたいと思っております。また、ユニットケアにおいては個々の暮らしを大切に、食事面で委託業者と協力しながらチームケアの実践ができるよう関わって行きたいと思っております。

医務課

服薬管理について服薬セットミス防止の為3回確認を行い服薬セットミス防止につながっているが、服薬介助時、落葉や服薬忘れが目立つため、今後服薬方法についての勉強会を開催し再発防止に努めます。また、感染症予防については今後も勉強会を開催し蔓延防止に努めます。

【全体総括】

上半期に看取り対象者、体調不良にて退去となった入居者様が重なり稼働率を下げってしまう要因となってしまった。上半期の反省を踏まえ嘱託医との連携、ご家族との看取り説明、体調不良者の早期発見、実調営業時間を設け待機者確保に努めた結果下半期稼働率97.4%と目標には届かないものの前年比+0.3%を確保する事ができました。

ユニットリーダー実地研修施設としてユニットケアへの理解を深め、他施設の見本となるため職員一同団結し年間23名のユニットリーダー実地研修生を受け入れました。研修生を受け入れていく中で他施設の職員の方々の目があり職員が常に緊張感を持ち業務に入っている様子が見られ施設全体に良い刺激となっております。今年度もより多くのユニットリーダー実地研修生を受け入れ、来年度はユニットリーダー実地研修施設更新時期である為満点評価で更新できるよう施設全体で改善を行って行きます。

今年度は、年度目標である、各役職の役割が曖昧となってしまう、一部の職員に負担が偏り、施設全体での成長ができませんでした。また、職員の入れ替えも多く、派遣職員に頼らざるおえない形となってしまうため、来年度は組織を見直し、役職者が責任をもって目標を達成していく事ができる組織にしていきます。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	H28 実績	96.4	94.3	95.7	96.9	98.1	98.3	98.4	98.7	97.3	95.7	96.6	95.8	96.9
	H29 目標	98.5	97.5	97.5	98.0	98.5	98.5	98.5	98.5	97.5	97.2	97.2	98.0	98.0
	H29 実績	95.7	95.6	93.8	95.6	97.5	97.8	96.0	97.3	98.3	97.8	98.4	96.4	96.7

平成29年度 かしわ翔裕園 事業報告

施設基本方針

5事業を運営する複合施設として、多様なニーズに対応出来るように常に改革の意識を持ち、他業種が連携し、関わる全ての方が笑顔になれる施設とします。

施設年度目標

- ①目標稼働率の達成 各事業ごとの目標設定をした稼働率・利用回数を達成する。
- ②増収 介護報酬の増加を図り、事業全体での黒字化を実現する
- ③地域との連携 地域との連携を図り、社会資源をフル活用することで、ご利用者の生活を総合的に支援する。

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【サービス付き高齢者向け住宅】

- ①稼働自体は比較的安定していたが、入院者や退去者が多く発生、退去者においては、全て看取り対象者であり、ご逝去によるものであった。待機者確保が実施できずに、退去が発生してからの新規入居者確保までに期間を要するケースが多く発生してしまった。
- ②日々のレクリエーション活動とイベントの実施により、施設日誌などによる広報活動から問い合わせを頂き入居の決め手となるケースが多く、好評を得ている。
- ③医療機関との連携で看取りや、医療行為における対応がスムーズに実践出来ており、今後継続し支援が行えるようにより連携を強化する。

【住宅型有料老人ホーム】

- ①昨年度11月より事業開始し、年度初めより満床でスタートを切ったが、常時入院者が発生している状況で入院が長引き、本人が居ない状態が年度を通じて発生していた。特に要介護度が高い方における体調面が安定せず、医療的な管理が必要であった。今年度、医療機関との連携をより強化し、入院を未然に防ぐ対策を講じていく。
- ②満床となって以降も問い合わせはあるものの入居を急ぎ待機者確保までにつながらないケースがほぼであった。

【通所】

- ①年度当初は新規利用者の獲得が進まず、稼働60%台が続いていたが、8月より新プログラムを開始、勢力的な広報活動を実施し新規利用者が徐々に増え、年度後半には稼働80%台に向上となった。
- ②内部での活動の充実と外部への広報力、双方の担当を明確にしバランスよく実践していく。

【訪問介護】

- ①下期サ高住、有料共に満床したことにより、年度末より訪問回数が飛躍的に増加している。本人都合等によるキャンセルも声かけによる成果で減少してきており、安定したサービス回数を維持している。
- ②ご利用者の増加とスタッフの増員により、情報の伝達や申し送り、ケアの統一などに課題があり、サ責を中心として着手している。
- ③ご利用者のADL低下に伴う、重介護、看取り状態の方への対応への体制を整え、ヘルパー一人ひとりがレベルアップし、対応できるようにしていくことが必要となっている。

【居宅】

- ①住宅入居者のプランにおいては訪問介護と連携を図り目標数を達成することが出来たが以前としてプランを追加出来る要素もあるので再アセスメントが必要であった。
- ②地域包括支援センター等への研修に参加し、地域の居宅のケアマネ達との交流を図ることで関係性を築き、新規相談に繋げることが出来た。

【全体総括】

年度当初の目標達成は訪問介護、居宅支援事業以外は未達となってしまった。入居においては入退去のタイムラグと入院者、待機者の確保、通所においては新規獲得が進まなかったことが主な要因であり、いずれも積極的な広報活動にて年度後期は、各事業自体が利用上限に到達してきており、稼働自体は改善してきている。園全体での連携を強化し業務改善に取り組んでいるが退職等に伴う人材補充が進まず、派遣社員や残業代の増加による経費が増加しており、介護人材の確保が難航している。今年度は制度改正に伴う集合住宅減算対象により、園全体での収支が減少してしまうが、各事業自体が上限に達してきており新たな改善策を講じる必要性があり、自費サービスの導入や増床を計画しており上期中に開始出来る様に準備を進めている。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
サ高住	H28 実績	96.0	91.0	84.9	92.0	92.0	94.0	93.9	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	93.7
	H29 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0
	H29 実績	94.4	97.3	95.5	97.9	90.3	93.7	94.3	95.3	86.2	92.0	100.0	100.0	94.7
有料	H28 実績								8.0	16.6	30.0	40.7	69.0	32.9
	H29 目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
	H29 実績	93.0	95.0	94.2	90.8	95.0	95.0	90.0	90.7	90.0	90.0	97.0	97.0	93.1
通所	H28 実績					81.0	79.0	75.5	71.5	74.5	62.5	64.4	66.0	71.8
	H29 目標	75.0	80.0	80.0	80.0	85.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	85.8
	H29 実績	62.5	62.5	65.5	61.0	69.0	62.5	65.0	78.5	82.5	78.0	81.0	83.0	70.9
訪問介護 (件数)	H28 実績	618.0	595.0	566.0	653.0	667.0	641.0	674.0	701.0	766.0	840.0	846.0	1140.0	725.6
	H29 目標	2580.0	2666.0	2580.0	2666.0	2666.0	2580.0	2666.0	2580.0	2666.0	2666.0	2408.0	2666.0	2615.8
	H29 実績	2738.0	2985.0	2766.0	2777.0	2640.0	2787.0	3016.0	2913.0	2696.0	2969.0	2933.0	3428.0	2887.3
居宅(件数)	H28 実績	26.0	25.0	23.0	26.0	27.0	25.0	27.0	29.0	28.0	35.0	38.0	45.0	29.5
	H29 目標	43.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	43.9
	H29 実績	49.0	50.0	47.0	48.0	49.0	51.0	49.0	49.0	48.0	48.0	50.0	51.0	49.1

平成29年度 ふなばし翔裕園 事業報告

施設基本方針

「ゆるがない基盤作り」 ご利用者と職員が自分らしい「いきいきマイライフ」の実現の為、現在の課題を見据え、チーム力の強化と一人ひとりが楽しみを持ってまた小さなことでも選択でき、元気に過ごせるよう施設のファンデーションと信頼関係の構築を目指していきます。

施設年度目標

1. 人材確保・育成と、法令を遵守し、組織・サービス体制の基盤強化
2. 自立支援介護の促進
3. 安定した入居稼働率と訪問介護サービス提供回数の確保
4. 地域の社会資源として機能を果たした社会貢献の実施

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【特養】年間平均稼働率 95.6% (目標96% 対目標比 -0.4% 対前年比 +1.7%)

・目標稼働率達成できなかった。

要因 ①4月～6月の退居から入居までのタイムラグが1週間以上かかってしまった。

②7月～8月に骨折事故があり、長期入院が多く出てしまった。

しかしながら、第2四半期より多職種で連携し、体調管理、事故、感染予防の研修の実施、また相談課が入居の手順の見直しを行い、入居準備を整え、またショートステイとの連携を実施し、空床期間を最小限に抑えることができ、下期は目標稼働率達成となった。

・余暇活動の充実を図り、施設全体の行事の他、ユニット毎に様々な個性的な企画を実施し、ご利用者楽しんでもらった。また施設の特徴である足湯、足つぼを活用し、ADLの向上に向けた、プロジェクトを実施し、成果を得ることができた。

・平成30年1月からの加算取得、平成30年4月からの居住費、食費変更に伴う、料金改定の同意については、2カ月前から説明を行い問題なく、同意を得ることができた。またその中で、負担の少ない他施設への移動希望者へは、退所がスムーズにできるよう援助を行う。

【短期入所】年間平均稼働率 97.2% (目標100%以上 対目標比 -2.8% 対前年比 +17%)

・目標稼働率達成できなかった。

要因 ①上期稼働率はとして101.1%と目標達成したが、下期はロング希望が多く、コントロールが難しくスムーズな対応ができなかった。

②新規登録者の3件/月に対して、平均4.3/月、年間合計52件と目標達成ができたが、体調不良や入院等での急なキャンセルに於いて、空床をすぐに埋めることができなかった。

スタートから2年が経ち、居宅介護支援事業所への訪問営業、FAX営業を重ねた結果、知名度の定着と居宅ケアマネとの信頼関係の構築ができ、新規契約、継続利用に繋がった。また特養空床の活用と緊急入所等の対応を各部署と特養相談員との連携により速やかに行うことができた。引き続き、来年度も連携をし、稼働率維持に努める。

・少人数のユニットのメリットを最大限にいかし、自宅に近い個別ケアを実践した。余暇の充実を目指し、日々の体操やレクリエーションの工夫を行い、日替わりで楽しんでもらえる替わり入浴の実施、また男性利用者のニーズに合わせた、「自分スタイルの時間」の提供しADL維持、向上を目指し、リピーター獲得に繋がった。

【訪問介護】年間平均訪問回数 213.5回 (目標300回 対目標比 -86.5回 対前年比 125.3回)

・目標稼働率達成できなかった。

要因 ①上期は新規獲得に難航したこと、また登録者の急な入院やご逝去によるキャンセルがあり、訪問回数の低迷となった。

②登録ヘルパー採用目標 8名は達成したが、半数が他事業所とのWワークや家庭の事情で、日時の制約が多かった。

下期より、サービス提供責任者の変更に伴い、毎月2回の訪問会議を開催し、営業方法(ちらしの見直し、訪問営業件数、FAX営業件数営業エリア、サービス距離範囲等)を変更した結果、徐々に新規居宅からの依頼が増え、3月単体では初めて300回の目標訪問回数を達成することができた。

・年間通じて職員採用に難航したが、当園の特養非常勤職員、また同法人の非常勤職員に、可能な曜日、時間等を有効に使ってもらえるよう声かけし、2名登録ヘルパーとして獲得した。次年度も特養、法人内で登録ヘルパーの声かけを行っていく。

・サ責の変更による引き継ぎが優先となり、目標の研修の実施が未達成となった。施設内職員の異動などにあり、サービスの質の向上、安定を目指し、次年度は登録ヘルパー、職員が定期的に顔を合わせ、研修の実施をすると共に、個々のスキルアップに繋げていく。

【全体総括】

・年間稼働率目標に対し全事業で未達成となった。しかし、各事業とも下期に於いては、会議にて営業方法の見直しや、他部署との連携を図り、特養と短期での総稼働率の目標達成、安定に努めた。また訪問についても、訪問、FAX営業の件数や範囲、営業回数を増やした結果、新規居宅からの依頼が増え、3月単体での目標達成となった。ただし、朝夕のサービスの依頼が集中するため、今後は朝夕のサービス依頼の取りこぼしがないよう、常勤職員や登録ヘルパー等の獲得を目指し、平均訪問回数300/月以上の達成を目指す。

・職員育成については年間通じて個別指導を行い、業務習得状況やスキルアップに合わせ、パートから契約、契約から正職員への雇用形態の見直しや変更、役務任命を行い、職員の自信や労働意欲に結びつけた。

・黒字収支を目指し、H30.1より日常生活継続支援加算、夜勤職員体制加算の取得を実施した。また行政と検討を重ね、H30.4より、食費居住費の変更決定した。同時に相談課を中心に説明、また同意書の作成を行い、今年度ほぼ同意を得ることができた。

・ご入居者と介護職員の負担軽減を目指し、自立支援介護委員会を中心にノーリフティングの促進としてステイディングボードの導入を実施、介護職員の研修を重ねて実用化した。また食事面では自ら選択するセレクトメニューとして昼食(1回/週)、おやつ(4回/週)郷土料理、バイキングを積極的に実施し、自立支援を目指した。

・年間通じて、納涼祭、翔裕園の日、敬老会、秋祭り等の大きな行事を企画し、地域に広報し、近隣を含めた地域住民の沢山の参加があり、職員のモチベーションに繋がった。またボランティアの受け入れを積極的に行い、地域とのつながりと貢献に努めた。

・今年度は基盤づくりの実施を目標に他職種との報・連・相を徹底することで、信頼関係の構築を行った。また各委員会や研修を勉強会を実施し、一人ひとりの問題意識の改革を図りました。次年度も定期的に研修を実施し職員個々の向上を目指す。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	H28 実績	90.6	93.0	94.4	92.8	91.2	92.4	93.7	95.9	96.7	96.3	97.0	93.3	93.9
	H29 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0
	H29 実績	91.7	93.2	94.3	92.9	93.0	97.5	98.4	98.0	98.9	95.2	95.9	97.6	95.6
短期	H28 実績	54.0	77.7	84.0	82.9	83.2	78.7	87.4	91.0	79.0	80.0	87.1	78.4	80.3
	H29 目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	H29 実績	87.3	96.1	102.0	99.7	120.7	100.7	93.9	93.3	92.9	87.7	93.2	99.0	97.2
訪問介護	H28 実績(回)	8	41	60	69	78	84	95	86	97	138	115	188	88.3
	H29 目標(回)	225	250	275	300	300	300	300	300	300	300	300	300	287.5
	H29 実績(回)	206	180	222	162	158	202	203	207	232	236	246	310	213.7